

痛風の発症年齢

両国東口クリニック

大山博司

目的

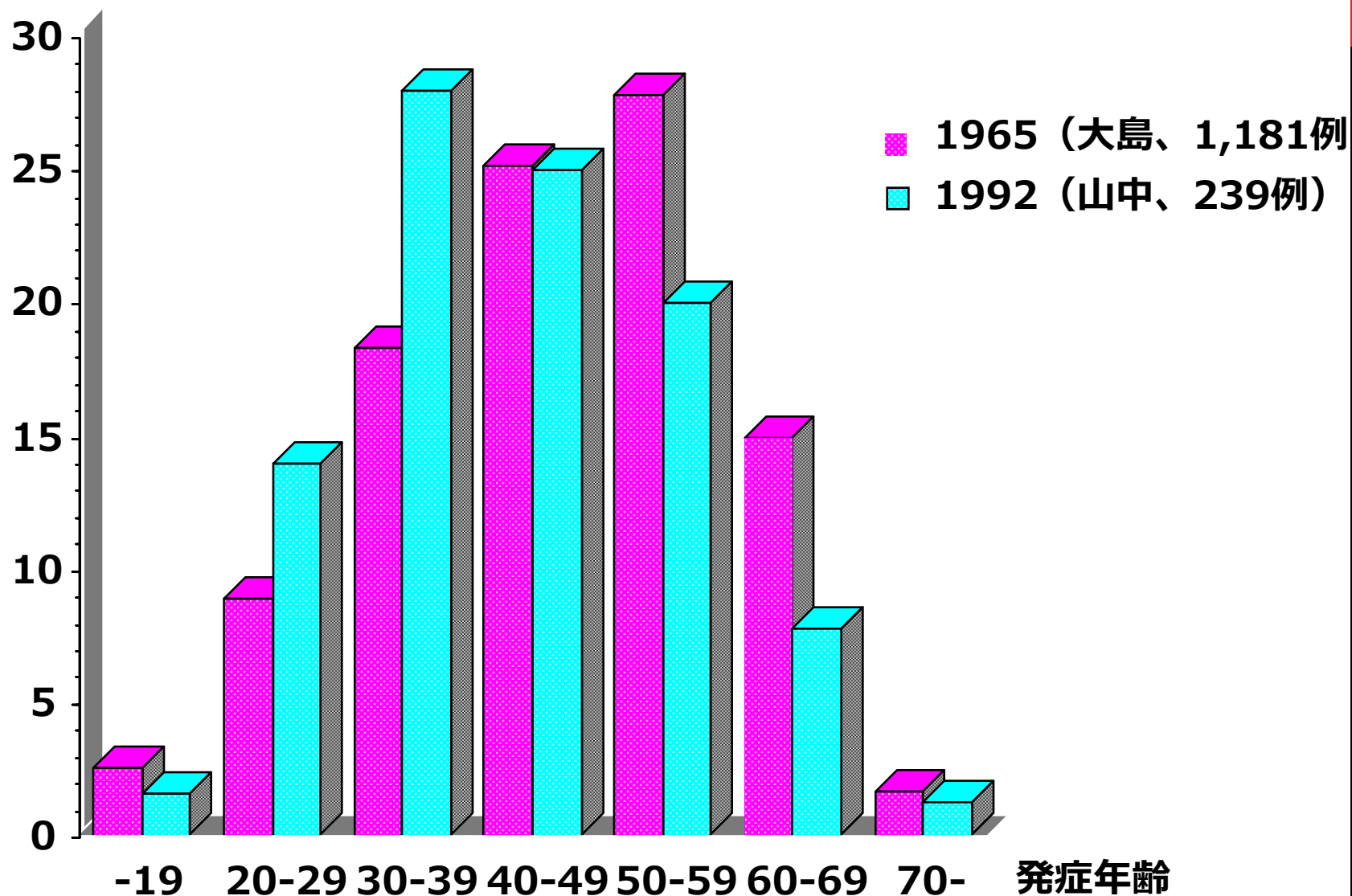
痛風の発症年齢については、1965年に大島らが60歳代をピークと報告し、1992年に山中らが30歳代をピークと報告している

これらの報告から痛風の発症年齢は本邦においては若年化していると考えられているが、最近の報告は見られない

今回、当院痛風外来を初診した痛風患者における痛風の発症年齢を調べたので報告する

痛風発症年齢の経年的推移

頻度 (%)



対象と方法

*** 2016年6月から2017年5月の1年間に当院痛風外来を初診した痛風患者の中で痛風発症年齢が明かなものを抽出し調査した**

*** 痛風初回発作で受診した患者の年齢を調査した**

*** 同時期に痛風外来を受診した痛風患者の年齢分布を集計した**

結果

*** 2016年6月から2017年5月の1年間に当院痛風外来を初診した痛風患者940例の中で痛風発症年齢が明かなものは、481例(男性468例、女性13例)であった**

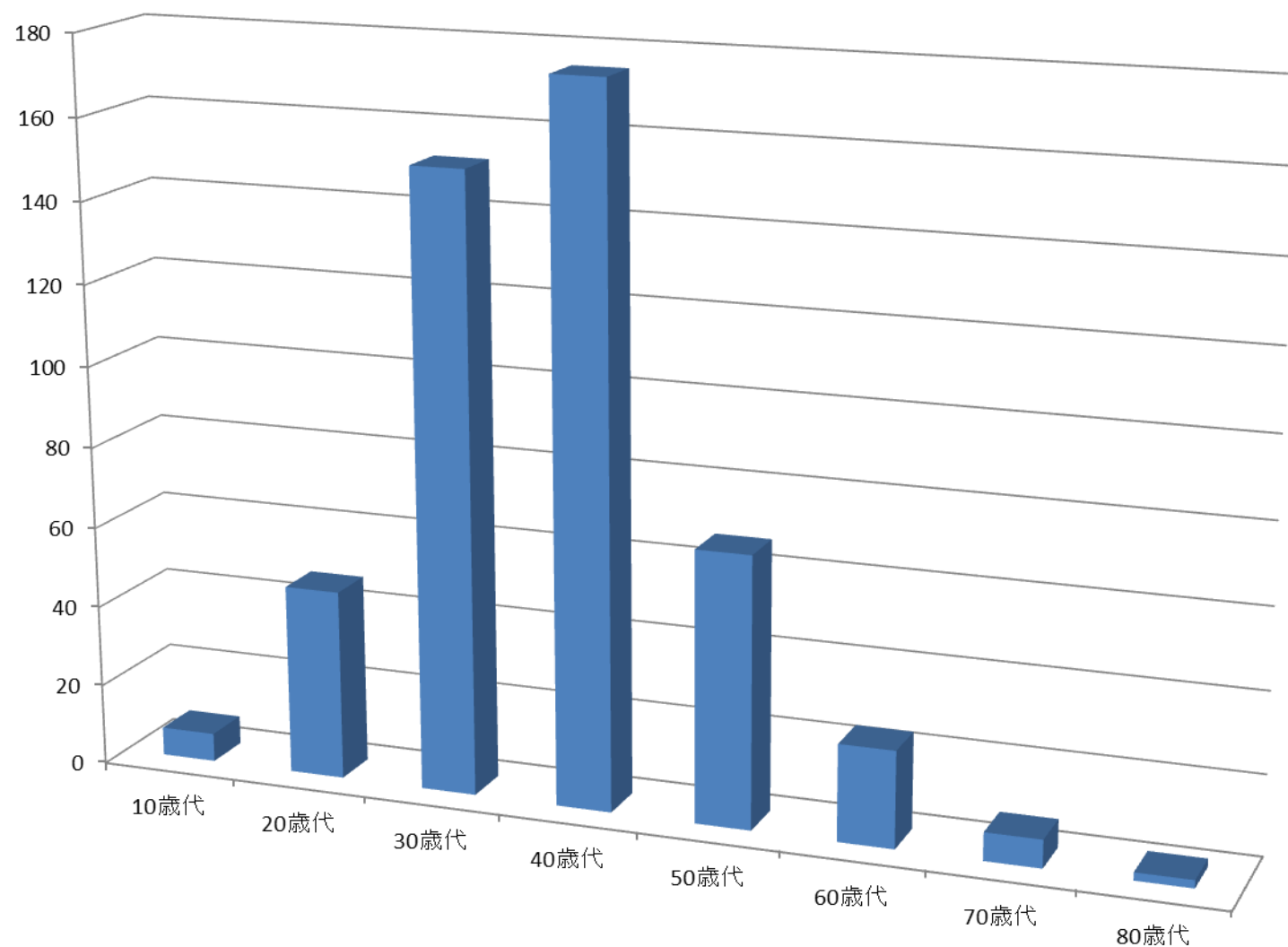
*** 発症年齢は、40歳代が最も多く37%、次いで30歳代が32%、50歳代が14%であった**

*** 20歳以下の若年発症は、11%であったが、70歳以上の高齢発症は、1%であった**

*** 初診痛風患者の中、痛風初回発作で受診した患者は、185例であり、こちらも40歳代が最も多く42%であり年齢分布も全例とほぼ同様であった**

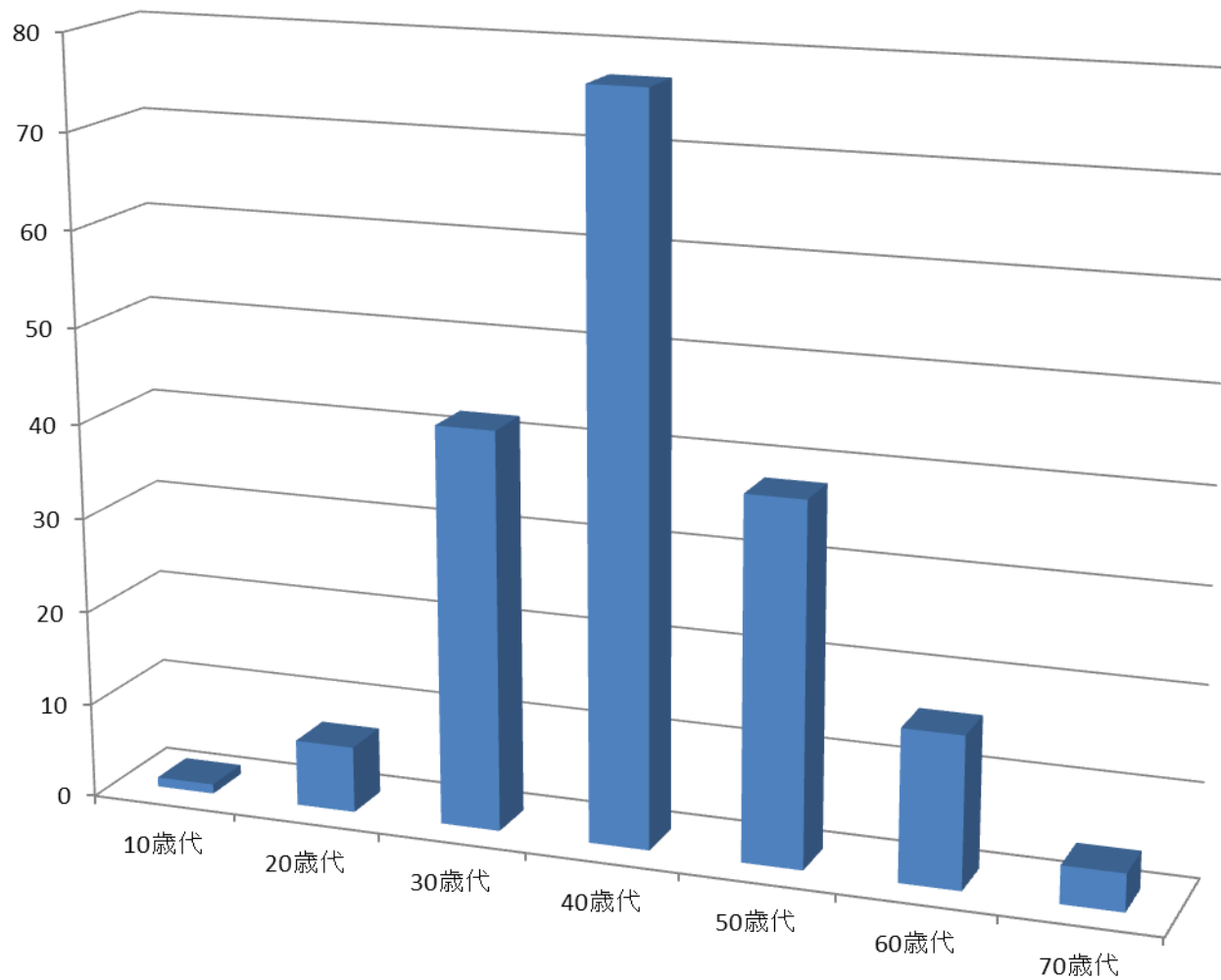
*** 同時期の通院痛風患者は、50歳代が最も多く35%、次いで40歳代30%、60歳代16%であり、70歳以上は9%であった**

痛風の発症年齢



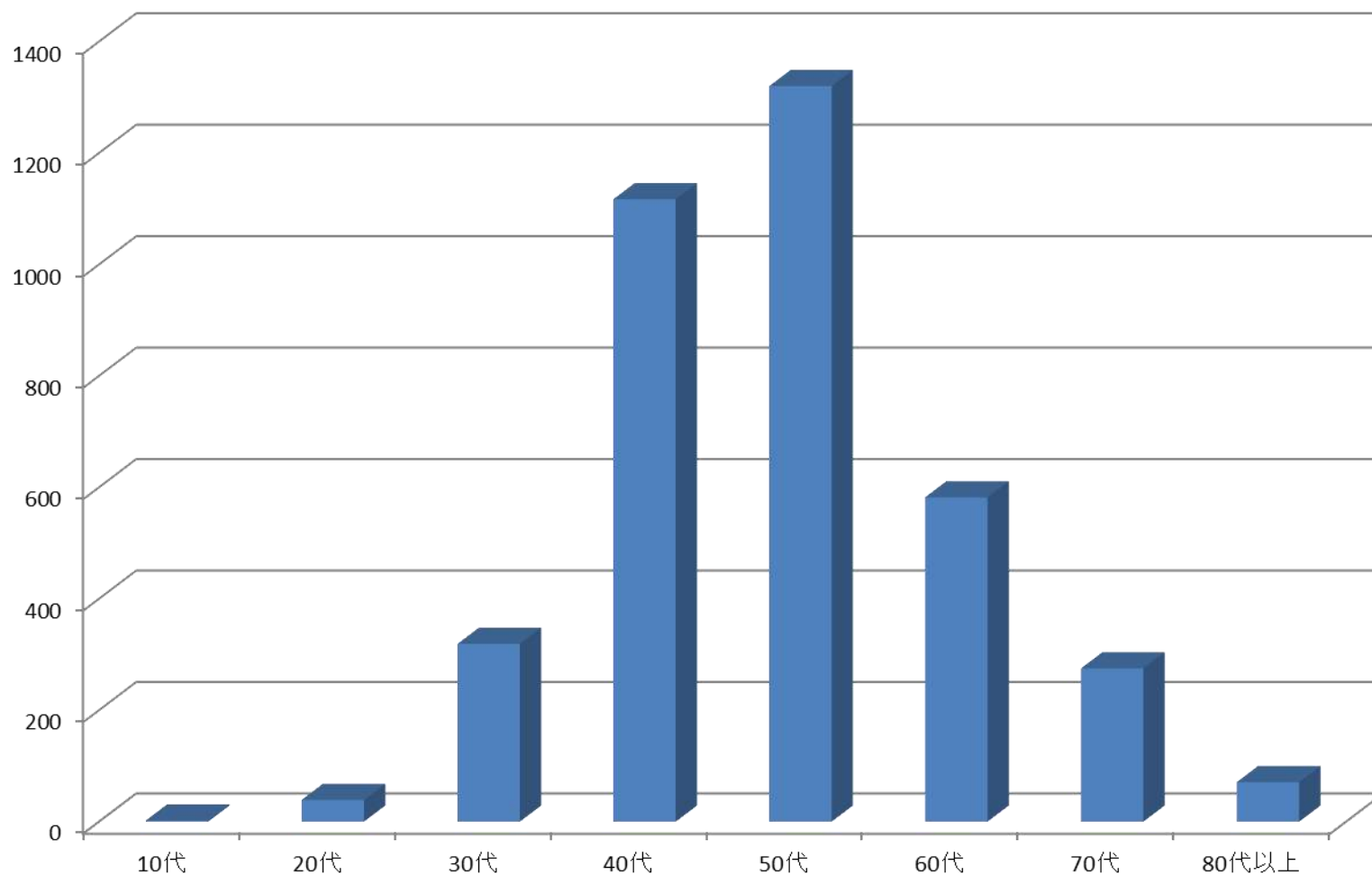
2016年6月～2017年5月 n=481

初回発作の発症年齢



2016年6月～2017年5月 n=185

痛風患者の年齢分布



2016年6月～2017年5月 n=3725

考察1

1992年に山中らは、痛風の発症年齢は30歳代をピークと報告しているが、今回の私たちの調査では、40歳代がピークであった

痛風初回発作で受診した患者のみでも全例とほぼ同様の年齢分布であった

山中らの報告から25年を経過しているが、その期間ではさらなる若年化は否定的である

一方、欧米では加齢とともに発症率が高まることが示されており、70～80歳代が発症のピークであると報告されている

考察2

本邦では国民生活基礎調査における通院率やレセプトデータベースにおける尿酸降下薬処方頻度はともに年齢とともに増加しているが、発症年齢を調査したものはない

本調査では、70歳以上での発症は、1%と極めて少数であった

通院痛風患者では、70歳以上の高齢患者が、9%と増加を示すが、40、50歳代が65%と多かった

これは、当院が広域から患者が受診する専門施設であり近隣の高齢者の受診が少ないことが関連しているかも知れないが、差が大きすぎることから、本邦における痛風の発症年齢が欧米とは異なる可能性があると考えられた

日本痛風・核酸代謝学会 COI 開示

大山博司

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。